

11. 3. 2004

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

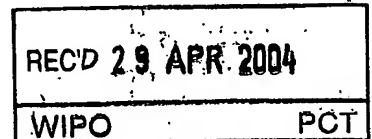
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日      2 0 0 3 年   5 月   9 日  
Date of Application:

出 願 番 号      特 願 2 0 0 3 - 1 3 1 9 6 7  
Application Number:  
[ST. 10/C]:      [ J P 2 0 0 3 - 1 3 1 9 6 7 ]

出   願   人      エヌエスプランニング株式会社  
Applicant(s):

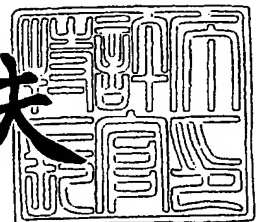


PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 4 年   4 月 1 5 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



BEST AVAILABLE COPY

【書類名】 特許願

【整理番号】 SPP0301

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A47G 25/82  
A47K 07/02  
A61H 23/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都豊島区南大塚 2-26-7 エヌエスプランニング株式会社内

【氏名】 吉田 司

【特許出願人】

【識別番号】 598167800

【氏名又は名称】 エヌエスプランニング 株式会社

【代理人】

【識別番号】 100075742

【弁理士】

【氏名又は名称】 鈴木 一元

【選任した代理人】

【識別番号】 100088122

【弁理士】

【氏名又は名称】 鈴木 洋子

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 069281

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0007323

【プルーフの要否】

要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 携帯用靴べら

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 幅方向に湾曲した板体を長手方向にも略弓状に湾曲させて細長棒状に形成した靴べらにおいて、その柄の部分を中心部で二つ折りにして全長を約半分にできるように構成した携帯用靴べらであり、前記柄の部分の先端部に孫の手を形成していると共に、その孫の手の部分と前記靴べらのへら部分とに身体たたき用弾性体を着脱自在に取付けられるように構成したことを特徴とする携帯用靴べら。

【請求項 2】 前記柄の部分は、前記孫の手の部分および前記靴べらのへら部分よりも前記幅が狭く形成されていると共に、前記身体たたき用弾性体は、身体への接触面を球面とした本体部と、前記孫の手の部分および靴べらのへら部分への取付け部とからなっており、

前記身体たたき用弾性体の取付け部は、前記柄の部分には係止せずに、前記孫の手の部分および靴べらのへら部分に係止する溝幅を有する係止用溝が形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の携帯用靴べら。

【請求項 3】 前記孫の手は、先端部を折曲した折曲端に設けている波状突起と、折曲部分に寄った左右側縁部に複数突設している小突起とから構成していると共に、前記身体たたき用弾性体の係止用溝には、前記孫の手の小突起に係止する係止孔が形成されていることを特徴とする請求項 1、2、3 記載の携帯用靴べら。

【発明の詳細な説明】

【発明の属する技術分野】

この発明は、バック等に入れて常時持ち歩くことのできる携帯用の靴べらに関するものである。

【従来の技術】

携帯用靴べらとしては、幅方向を同一形状に湾曲し細長偏平棒状に形成した靴べらと孫の手をそれぞれの基端部にてピンで回転自在に連結したものが知られている。

この携帯用靴べらは、孫の手の機能を兼ね備えるものとしてピン着部分で折り畳めるようにしたことにより、旅行時などに持ち運んで、靴を履くときや背中が痒いときに容易に素早く対処できるようしたものである。

#### 【特許文献】

特開 2002-306554 号公報

#### 【発明が解決しようとする課題】

前述した従来の携帯用靴べらは、別個に存在していた孫の手及び靴べらを一体にし、バッグ等に入れて持ち歩けるものとして、旅行などの外出に際して必要に応じて即座に対応できるようにしたものである。

一方、旅行の移動時のように長時間同じ姿勢でいる場合には、一般的に、身体をほぐすして血行を良くするような動作を行いたくなる。

ところが、前述した従来の携帯用靴べらにはこのような身体をほぐすような機能は付加されておらず、例えば、旅行時に持ち歩くものに、そのような機能を持たせることが望まれていた。

この発明は前述した事情に鑑みて創案されたもので、その目的は靴を履くとき、背中が痒いとき、身体をほぐしたいときに、容易に素早く対処することができる携帯用靴べらを提供することにある。

#### 【課題を解決するための手段】

この発明の携帯用靴べらは、幅方向に湾曲した板体を長手方向にも略弓状に湾曲させて細長棒状に形成した靴べらにおいて、その柄の部分で中央部で二つ折りにして全長を約半分にするように構成している。

そして、この発明の携帯用靴べらでは、柄の部分の先端部に孫の手を形成していると共に、その孫の手の部分と靴べらのへら部分とに身体たたき用弾性体を着脱自在に取付けられるように構成している。

このようなこの発明の携帯用靴べらによれば、孫の手と身体たたきとの機能を兼ね備えるものとして折り畳めるようにしたことにより、旅行時などに持ち運んで、靴を履くときには靴べらのへら部分で、背中が痒いときには孫の手の部分で、身体をほぐしたいときには身体たたき用弾性体で肩たたきのようにして、容易に素早く対処することができる。

**【発明の実施の形態】**

以下、この発明の携帯用靴べらを図示する一実施形態によって説明する。

携帯用靴べら 1（図 1 参照）は、幅方向に湾曲した板体を長手方向にも略弓状に湾曲させて細長棒状に形成した靴べらにおいて、その柄 1 a の部分を中央部で二つ折りにして全長を約半分にできるように構成している。

そして、この携帯用靴べら 1 は、柄 1 a の部分の先端部に孫の手 2 を形成していると共に、その孫の手 2 の部分と靴べらのへら部分 1 b とに身体たたき用弾性体 3 を着脱自在に取付けられるように構成している。

この実施形態での柄 1 a の部分は、孫の手 2 の部分および靴べらのへら部分 1 b よりも幅が狭く形成されている。

なお、この柄 1 a の部分は、中央部分において回転自在にピン 4 によりピン着された二個の部材で構成されていると共に、この中央部分も孫の手 2 の部分および靴べらのへら部分 1 b と同じ幅で形成されている。

この実施形態での孫の手 2 は、先端部を折曲してなる折曲部 2 a の折曲端に複数設けている波状突起 2 b と、折曲部 2 a に寄った左右側縁部に複数突設している小突起 2 c とからなっている。

この実施形態での身体たたき用弾性体 3 は、図 2～図 4 に示すように、身体への接触面 3 a を球面とした本体部 3 b と、孫の手 2 の部分および靴べらのへら部分 1 b への取付け部 3 c とからなっている。

この実施形態での身体たたき用弾性体 3 の取付け部 3 c には、柄 1 a の部分に係止しない（図 3 参照）と共に、孫の手 2 の部分および靴べらのへら部分 1 b に係止する（図 2 参照）溝幅を有する係止用溝 3 d が形成されている。

このような身体たたき用弾性体 3 は、係止用溝 3 d を利用して、図 1 に示すように、柄 1 a の部分から孫の手 2 の部分（靴べらのへら部分 1 b）にスライドさせることにより、係止用溝 3 d を利用して、孫の手 2 の部分と靴べらのへら部分 1 b とに取付けられる。

この時に、係止用溝 3 d の幅を、孫の手 2 の部分および靴べらのへら部分 1 b の幅よりも、少しだけ小さなものとしておくことにより、係止用溝 3 d の幅に孫の手 2 の部分および靴べらのへら部分 1 b が嵌合するようになって、身体たたき

用弾性体 3 を孫の手 2 の部分および靴べらのへら部分 1 b に確実に取付けることができる。

また、孫の手 2 の部分（靴べらのへら部分 1 b）から柄 1 a の部分にスライドさせることにより、孫の手 2 の部分と靴べらのへら部分 1 b とから取り外せるようになっている。

即ち、これらのことから、身体たたき用弾性体 3 は、孫の手 2 の部分と靴べらのへら部分 1 b とに着脱自在に取付けられるようになっている。

このような構成からなる携帯用靴べら 1 の使用に際しては、次に述べるようにして行う。

まず、持ち運び時には、図 5 に示すように、中央部分のピン 4 を中心に回転させて柄 1 a の部分の二個の部材を重ね合わせることにより、柄 1 a の部分を中央部で二つ折りにして全長を約半分とし、携帯用靴べら 1 をコンパクトにする。

この持ち運び時の身体たたき用弾性体 3 は、そのまま別に携帯してもよいが、例えば、図 5 の（a）に示すように、重ね合わされた孫の手 2 の部分および靴べらのへら部分 1 b に取り付けておく。

次に、この折り畳んで携帯している携帯用靴べら 1 の使用時には、孫の手 2 側あるいは靴べらのへら部分 1 b 側の何れか一方を回転させ押し開いて、図 1 に示すように、略弓状に湾曲した細長棒状とする。

そして、孫の手および靴べらとして用いる場合は、そのままの状態で孫の手 2 の部分およびへら部分 1 b を使用する。

また、身体をほぐす場合には、前述したようにして、身体たたき用弾性体 3 を孫の手 2 の部分または靴べらのへら部分 1 b に取付け、本体部 3 b の接触面 3 a で身体の高まっている部分を肩たたきのようにして叩いて使用する。

このようにこの発明の携帯用靴べら 1 によれば、孫の手と身体たたきとの機能を兼ね備えるものとして折り畳めるようにしたことにより、旅行時などに持ち運んで、靴を履くときには靴べらのへら部分で、背中が痒いときには孫の手 2 の部分で、身体をほぐしたいときには身体たたき用弾性体 3 で肩たたきのようにして、容易に素早く対処することができる。

図 6 は、この発明の携帯用靴べら 1 の別形態を示すものである。ここでの身体

たたき用弾性体 3 は、孫の手 2 の左右側縁部に複数突設した小突起 2 c を利用して取付けている。即ち、身体たたき用弾性体 3 の係止用溝 3 d に、図 7 に示すように、孫の手 2 の小突起 2 c が係止する係止孔 3 e を形成している。

この実施形態では、孫の手 2 における左右側縁部の小突起 2 c の一つを大きくし抜け止め用係止突起 2 d (図 6 参照) にしていると共に、その抜け止め用係止突起 2 d が係止する係止孔 3 e (図 7 参照) を身体たたき用弾性体 3 の係止用溝 3 d に形成している。

このようにすれば、身体たたき用弾性体 3 を孫の手 2 の部分に取付けることにより、身体たたき用弾性体 3 で身体を数多く叩いても、抜け出ることなく取付け状態をより確実に保持することができる。

なお、この孫の手 2 における左右側縁部の小突起 2 c は、例えば、背中に塗り薬を塗る時などに、塗り薬用の布を止める輪ゴムを係止させる場合などに利用することもできる。

#### 【発明の効果】

この発明によれば、携帯用靴べらを孫の手と身体たたきとの機能を兼ね備えるものとし折り畳めるようにしたことにより、旅行時などに持ち運んで、靴を履くときには靴べらのへら部分で、背中が痒いときには孫の手の部分で、身体をほぐしたいときには身体たたき用弾性体で肩たたきのようにして、容易に素早く対処することができる。

#### 【図面の簡単な説明】

##### 【図 1】

(a) はこの発明の携帯用靴べらを示す概略図で、(b) は (a) の A-A 線矢視図である。

##### 【図 2】

図 1 (a) の B-B 線断面図である。

##### 【図 3】

図 1 (a) の C-C 線断面図である。

##### 【図 4】

(a) はこの発明の携帯用靴べらで使用する身体たたき用弾性体を示す概略図



で、(b)は(a)のD-D線矢視図で、(c)は(b)のE-E線矢視図である。

【図5】

(a)はこの発明の携帯用靴べらの折り畳んだ状態を示す概略図で、(b)は(a)のF-F線矢視図である。

【図6】

この発明の携帯用靴べらの別形態を示す概略図である。

【図7】

(a)は図6の携帯用靴べらで用いる身体たたき用弾性体を示す概略図で、(b)は(a)のG-G線矢視図で、(c)は(b)のH-H線矢視図である。

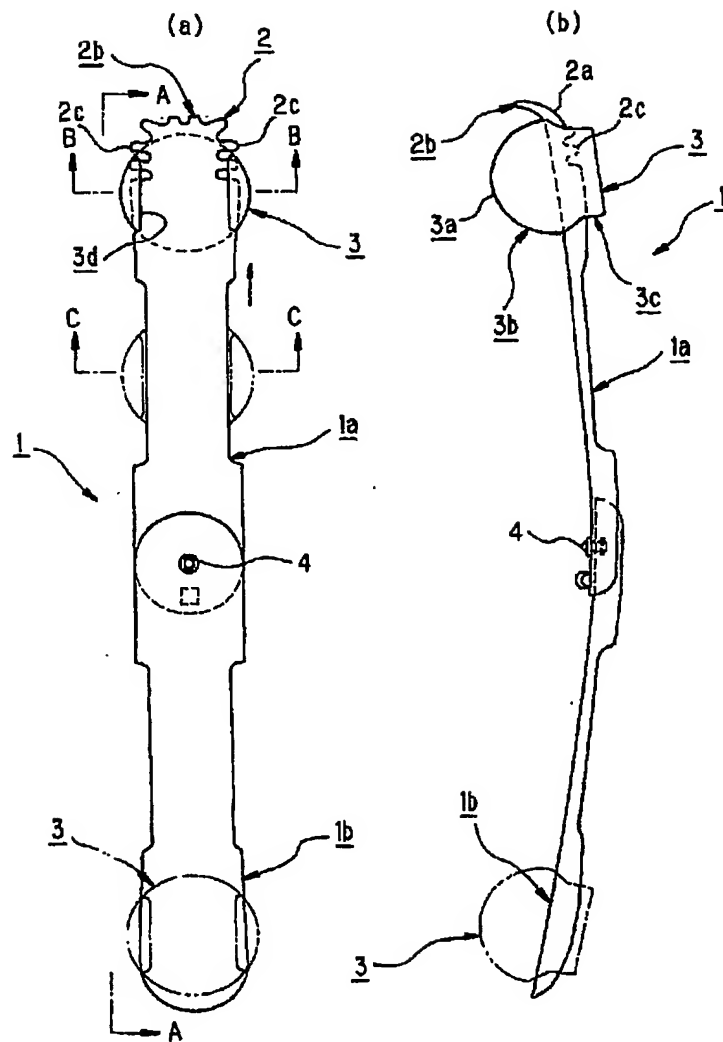
【符号の説明】

1…携帯用靴べら、1 a…柄、1 b…へら部分、2…孫の手、2 a…折曲部、2 b…波状突起、2 c…小突起、2 d…抜け止め用係止突起、3…身体たたき用弾性体、3 a…接触面、3 b…本体部、3 c…取付け部、3 d…係止用溝、3 e…係止孔、4…ピン。

【書類名】

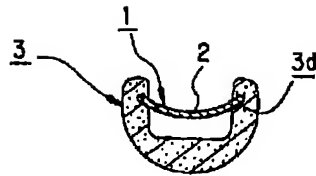
図面

【図 1】



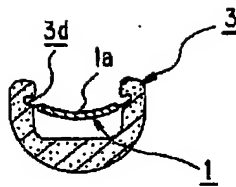
BEST AVAILABLE COPY

【図 2】



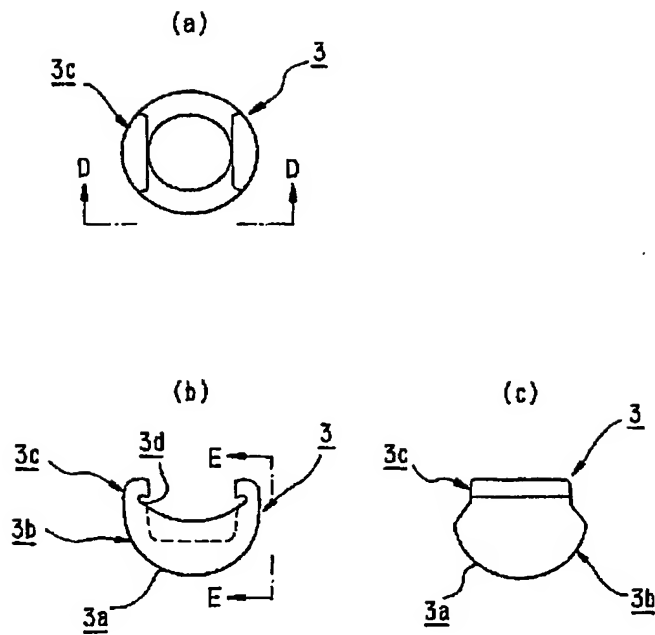
BEST AVAILABLE COPY

【図 3】



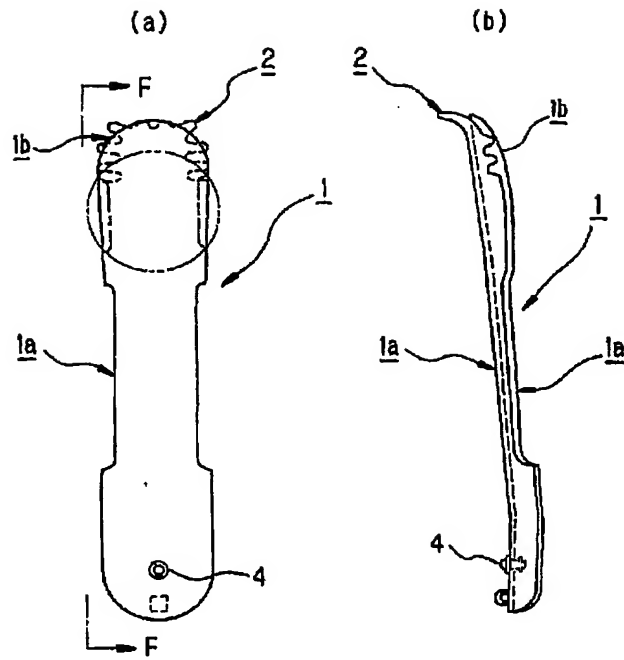
BEST AVAILABLE COPY

【図 4】



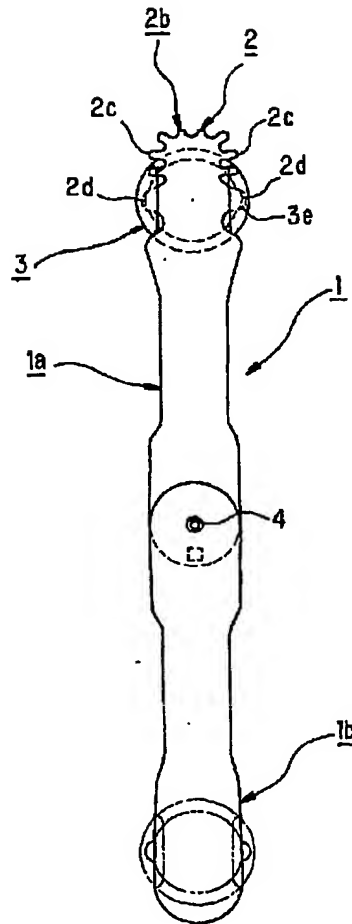
BEST AVAILABLE COPY

【図 5】



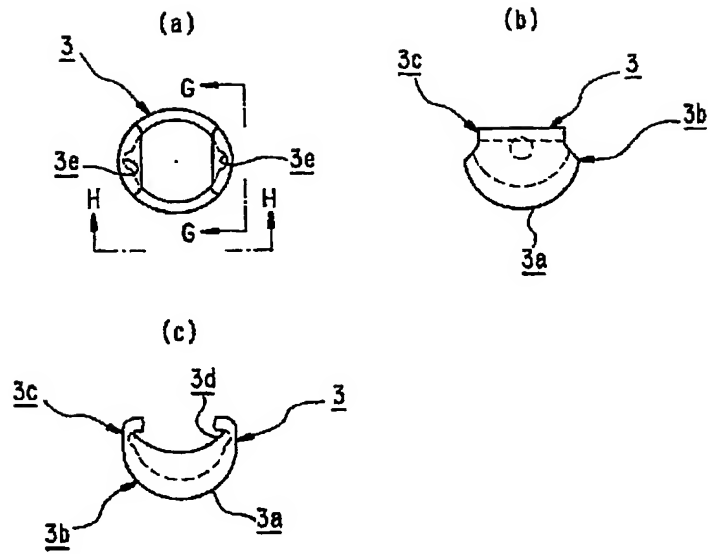
BEST AVAILABLE COPY

【図 6】



BEST AVAILABLE COPY

【図 7】



BEST AVAILABLE COPY



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 靴を履く、背中が痒い、身体をほぐしたい時に、容易に素早く対処できる携帯用靴べらの提供。

【解決手段】 携帯用靴べら 1 は、幅方向に湾曲した板体を長手方向にも略弓状に湾曲させて細長棒状に形成した靴べらにおいて、その柄 1 a の部分を中央部で二つ折りにして全長を約半分にできる。また、柄 1 a の部分の先端部に孫の手 2 を形成していると共に、その孫の手 2 の部分と靴べらのへら部分 1 b とに身体たたき用弾性体 3 を着脱自在に取付けられる。そして、孫の手と身体たたきとの機能を兼ね備えるものとして折り畳めるようにしたことにより、旅行時などに持ち運んで、靴を履くときには靴べらのへら部分で、背中が痒いときには孫の手の部分で、身体をほぐしたいときには身体たたき用弾性体で肩たたきのようにして、容易に素早く対処することができる。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-131967
受付番号	50300772099
書類名	特許願
担当官	雨宮 正明 7743
作成日	平成15年 5月12日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成15年 5月 9日

次頁無

特願 2 0 0 3 - 1 3 1 9 6 7

ページ : 1/E

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 5 9 8 1 6 7 8 0 0 ]

1. 変更年月日

1 9 9 8 年 1 1 月 1 9 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都豊島区南大塚 2 - 2 6 - 7

氏 名

エヌエスプランニング株式会社